



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.31 2023. 1. 29 発行

ライオンの口をふさぐ神さま

ダニエル書6章19～28節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

ユダの国はバビロニアという強い国に負けて、民は捕虜として連れて行かれます。その中に、ダニエルという少年がいました。ある日、王さまのお仕事を手伝うために元気で勇気のある子どもたちが選ばれました。ダニエルと3人の友だちでした。一生懸命お勉強して賢くなった4人は、バビロニアの王さまに仕えていました。でも主なる神さまを忘れることがない光の子どもでした。ところが、王さまに可愛がられるダニエルたちを妬む人々がいました。その人たちは、彼らがバビロニアの神々を拝まないのでもういじめてやろうと企てて、王さまをだまして「これから30日間、王さま以外のものに願い事をする人は、ライオンのえさにする」という命令を出させました。それは、ダニエルたちが毎日エルサレムの方に向かって主なる神さまを礼拝して祈っていることを知った家来たちが、「ダニエルたちを殺そう」と企てたことでした。案の上、ダニエルたちはこれまでと変わらずエルサレムに向かって祈ります。ついに、ダニエルたちは王さまの命令に従わなかったと捕らえられ、ライオンの洞窟に入れられて、餌にされてしまいます。ダニエルを可愛がっていた王さまはそんなことしたくないのに、家来にだまされて自分が出した命令ですから取り返しがつきません。困った!困った!どうしよう!! 王さまはイスラエルの神さまがダニエルたちを守ってくださればいいのだから…と心配しました。翌朝、気が気でない王さまはライオンの洞窟に行って「ダニエル、生きているか?」と呼びかけると…洞窟の中から「王さま、わたしは何ともありません。わたしたちが信じている真の神さまがライオンの口をふさいでくださったのです」とダニエルの元気な声が聞こえてきます。王さまはダニエルを助け出して、新たな命令を出しました。「ダニエルが信じている神さまを敬いなさい」ダニエルたちは故郷から遠く離れても、真の神さまを信じ続けました。それを見た人たちも、ダニエルたちが信じる神さまが真に強い神さまだと知るようになったのです。

堀内長老からのメッセージ



今回のクラスルームを発行した1月29日は第一礼拝、第二礼拝ともに讃美歌507番「主に従うことは」が歌われました。1923年の『日曜学校讃美歌』から始まって、日曜学校、教会学校で歌い続けられてきました。荻窪清水教会でも日曜学校礼拝では、年間たびたび歌われ、私たちが親しんでいる讃美歌です。この讃美歌の作詞と作曲はアメリカの牧師、グラント・タラー（1869-1950）です。タラーは幼い時に親を亡くし、正式の学校教育を受けたのは3年間だけといった恵まれぬ環境の中で育ちましたが、19歳で志を与えられて牧師となり、教会の音楽関係でも熱心に働きました。讃美歌の各節の始めは「主に従うことは、なんと素晴らしいこと。主に従うことは、なんといいあわせ。主に従うことは、なんと心づよい。」と歌われています。今、一部の宗教団体で、力づくで従わせることが問題になっていますが、私たちはそうではなく、心からの素直な思いでこの讃美歌を歌いつつ、イエスさまに従って歩みたいものです。（日本キリスト教団出版局発行・『讃美歌21略解』を参考にしました。）

